

令和4年8月22日

### プレイスメイキング等の実証実験提案書

活動名	ストリートライフお茶の水 (Street Life Ochanomizu)
提案者	茗溪通り会 日本大学理工学部建築学科都市計画研究室 (泉山ゼミ) 一般社団法人ソトノバ
所在地	茗溪通り (東京都千代田区神田駿河台)
活動の目的	A. 休日の一般車規制 (規制時間延長) による自動車交通・荷捌き車、歩行者の影響を検証する。 B. 歩行者専用道路化による滞留空間の創出 以上2点の活動目的により、御茶ノ水・茗溪通りのQOSL(Quality of Street Life)の向上を図り、地域の愛着やつながりを強化していくことを目指す。
<b>【概要】</b> <b>1. 活動の概要</b> ・本活動は、お茶の水・茗溪通りにおいて、 <b>①</b> お茶の水アートピクニック (土日のホコ天イベント) 時 (10/8-9)、 <b>③</b> 日常的なホコ天のみ (10/15-16)、 <b>②</b> 日常的なホコ天時における滞留空間創出 (10/22-23) の3つの状況に対し、A. 自動車交通・荷捌き車、歩行者の影響、B. 滞留空間の創出等の実験を実施し、調査により効果検証を行う。  <b>2. 地域課題の内容</b> ・歩行者空間の不足による歩行者の混雑、病院藤野立地によるユニバーサルデザインへの配慮 ・お茶の水・茗溪通りの歴史・文化の発信に資する活動の場 (滞留空間) の欠如 ・新型コロナウイルス感染拡大による都心オフィス街・学生街のニューノーマルの対応	
<b>【スケジュール】</b> 9月中：行政・警察協議 (道路管理者・交通管理者) 社会実験企画調整・調査企画・調査員募集 10/8 (土)、9 (日) お茶の水アートピクニック (別企画) 時の調査実施 10/15 (土)、16 (日) 休日日中の交通規制実験及び調査実施 10/22 (土)、23 (日) 交通規制実験及び滞留空間実験、調査実施 11月-12月：調査集計・分析・結果とりまとめ	

# Street Life Ochanomizu

ストリートライフ お茶の水



2022年8月22日  
茗溪通り会  
日本大学工学部建築学科都市計画研究室（泉山ゼミ）  
一般社団法人ソトノバ



ソトノバ  
sotonoba.place

## 社会実験の背景とこれまでの取り組み

### 社会実験の背景

お茶の水は、湯島聖堂やニコライ堂をはじめとする歴史的な宗教施設、多くの大学や専門学校などの教育施設、総合病院や専門病院などの医療施設が集まる、まれに見る**文教の街**である。また、茗溪通りでは**恒常的な歩行者専用道路化**が検討されており、街路の安全性や滞在性の向上が期待されている。現在、歩行者交通量の多い茗溪通りを**8-9時、12-13時**の間**歩行者天国**にしている。

しかし、単に車を止めるだけでなく、居心地の良い滞留空間の整備によって、人々が快適に活用できる茗溪通りを形成することを目的に社会実験を行う。

本社会実験においては、**文教の街にふさわしい人中心の滞留空間**を整備し、それに対する評価を行う。

### 地域課題

#### ユニバーサルデザインへの配慮

JR 御茶ノ水駅周辺には、病院も多く立地しており、学生や会社員のみならず体の不自由な人も利用している。歩道は狭く、歩行者同士の接触事故の可能性がある。

#### 滞留空間の欠如

お茶の水・茗溪通りの歴史・文化の発信に資する活動の場や滞留空間が欠如している。

#### 都心オフィス街・学生街のニューノーマルの対応

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、営業を止めた店舗があり、空きテナントが生まれ、活気が失われた。

歩行者専用道路化を行い**安全性を確保し、滞留空間を設ける**ことで茗溪通りを活性化させる

### 2021 年度調査

茗溪通り会と日本大学理工学部建築学科都市計画研究室（泉山ゼミ）が協力し調査を実施した。調査では、**恒常的な歩行者専用道路化**を行うため、歩行者専用道路化時の**周辺自動車交通への影響、荷捌き車両の対応、歩行者交通量や人の滞留行動**を把握した。

### 2021 年度の調査結果

#### ・自動車交通量調査

自動車交通量は平日の方が多く、**休日の2倍**となっている。茗溪通りの流入している自動車は、明大通りの約10%以下となっており、茗溪通りの**交通機能の重要性は低い**。



図．明大通りを走行する自動車

#### ・歩行者交通量調査

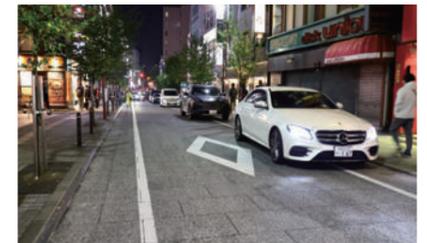
平日において、歩行者交通量の1日の合計が最も多い地点は**約7万人**となっている。休日はほとんどの調査地点における1日の歩行者交通量の合計は**平日の半数**となっていた。



図．茗溪通りの歩行者交通

#### ・荷捌き調査

休日と比べると荷捌き駐停車数は**平日の方が多い傾向**にある。荷捌き駐停車は、主に**平日の午前中**に行われる。平日、休日問わず夜には**送迎を目的**とした駐停車が見られた。



図．茗溪通りで行われる駐停車

#### ・滞留行動調査

御茶ノ水駅の改札前、民地の溜まり場になるような空間に**滞留行動が集中**していた。滞留行動の発生数は**休日の方が少なかった**。



図．茗溪通りで行われる滞留行動

## 社会実験の目的

### 社会実験の狙い

A. 茗溪通りで休日の一般車規制（規制時間延長）による荷捌き車、歩行者への影響を検証する。B. 歩行者専用道路化による滞留空間の創出。以上2点により、茗溪通りの課題を解決し、QOSL（Quality Of Street Life）の向上を図り、地域の愛着・つながりを強化し、「つながる都心」の実現を目指す。

#### ①お茶の水アートピクニック（土日のホコ天イベント）時（10/8-9）

お茶の水アートピクニックは1年の中で最も茗溪通りに賑わいを見せる。イベントを実施した場合の歩行者の交通量及び滞留行動を把握する。



図1. アートピクニックの様子  
出典：千代田遺産

#### ②日常的なホコ天のみ（10/15-16）

一般車規制を行い、歩行者専用道路化をした場合の、歩行者の交通量や滞留行動を把握する。



図3. 茗溪通りの歩行者天国化

#### ③日常的なホコ天時における滞留空間の創出（10/22-23）

日常的に滞留空間の場を創出した場合の歩行者の交通量及び滞留行動を把握する。また、利用者や周辺店舗への意識調査などを行い、茗溪通りに求める空間を明らかにする。



図2. 道路に滞留空間を設ける様子

上記3つの状況に対する、荷捌き車、歩行者への影響、滞留空間の創出等の実験を実施し、調査により効果検証を行う。それらと比較することにより、茗溪通りにおける歩行者専用道路化による、滞留行動の変化や歩行者交通量への影響を明らかにする。



## 茗溪通りが目指す将来像

### 茗溪通りが目指すストリート

長期的なビジョンとして、平日及び休日において茗溪通りを歩行者専用道路化し、歩車を分離を目指す。その後、歩行者利便増進道路（以下、ほこみち）制度を活用し民間主体で机や椅子などの設置を目指す。これにより、ニューヨークのユニオンスクエアのような道路の広場化を目指し、QOSL (Quality Of Street Life) の向上を図るとともに、地域の愛着・つながりを強化し、「つながる都心」を実現する。

恒常的な歩行者専用道路化  
による歩車分離



図8. ホコ天中の茗溪通り

ほこみち制度の活用による  
利活用の円滑化



図9. ほこみち制度による利活用イメージ  
出典：ほこみち研究会

道路を広場化し、地域の愛着・つながりを強化するお茶の水の玄関口へ

将来像に近い事例  
ユニオンスクエア  
(ニューヨーク)



図10. 道路が広場化しているユニオンスクエア（ニューヨーク）の様子  
出典（左）：ソトノバ 出典（右）：mikissh.com

### ほこみち（歩行者利便性増進道路）制度

歩行者利便増進道路（ほこみち）とは、2020年11月に道路法等の一部改正により創設された制度。道路管理者（茗溪通りの場合は千代田区）が道路をほこみちに指定し、歩行者の利便性を向上する利便増進誘導区域を道路上に指定すると、賑わいを生み出すための様々な占用物件が設置可能となる。

指定を受けるための条件として、バリアフリーなどの構造基準を満たしていること、「歩車分離」ができていること、周辺の地権者等の関係者の同意形成が行えていることが挙げられる。

この制度のポイントは、指定以降は警察協議等を行わずに占用物件を設置できるため、民間の創意工夫を凝らした道路空間の占用が円滑に行えるようになる。また、道路管理者が道路占用主体を公募により選定することが可能になり、この場合には最長20年の占用が可能となります（通常は5年）。

— 設置可能な物件例 —



オープンカフェ  
購買施設



看板・アーチ  
広告



サイクルポート  
出典：国土交通省



ベンチ・フラワーポット  
出典：ソトノバ

— 全国各地の「ほこみち」事例 —



横浜—日本大通り



姫路—大手前通り  
出典：ラジオ関西



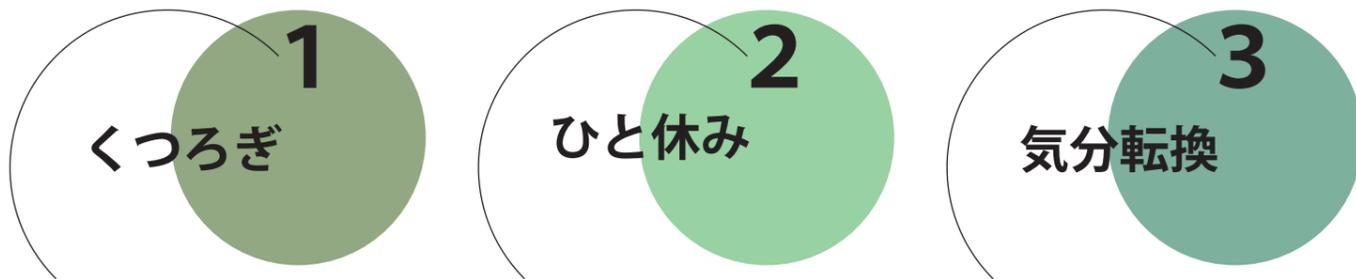
神戸—三宮中央通り  
出典：ソトノバ



大阪—御堂筋  
出典：大阪市

# 10/22,23 に行う社会実験のコンセプト

## コンセプト



お茶の水周辺は、学生街として発展してきた。また、神田明神や湯島天神など文化的な施設も多く、御茶ノ水駅から神保町まで歩いて向かう人もいる。御茶ノ水駅の改札前では、待ち合せや会話をしている人などが見られる。そこで、茗溪通りに3タイプの滞留空間を設け、場所ごとに短時間の滞在から長時間の滞在まで対応し、アートの要素やお茶の水の文化を発信をする要素を取り込んだ滞留空間とすることで、茗溪通りの豊かさを支え、「千代田区の玄関口」としてふさわしい拠点を整備する。長期的には、茗溪通りを恒常的に歩行者専用道路化し、公園のように利用できる空間とすることを旨とする。



図12. 社会実験のイメージ



図14. 実施地点①の実施場所の様子



図15. 実施地点②の実施場所の様子



図16. 実施地点③の実施場所の様子



図13. 社会実験の実施地点